

活動報告

近畿大学臨床心理センター平成 25 年度活動報告

奥 野 洋 子 (OKUNO, Yoko)

I. はじめに

近畿大学臨床心理センター（以下「センター」と略す）は平成 19 年 4 月に開設され、5 年が経過した。平成 21 年 4 月には大阪府大阪市中央区日本橋にある近畿大学会館内に、日本橋カウンセリングルーム（以下「カウンセリングルーム」と略す）を開いた。平成 25 年 4 月から平成 26 年 3 月までの 12 ヶ月間についての活動を報告する。

II. センター紹介

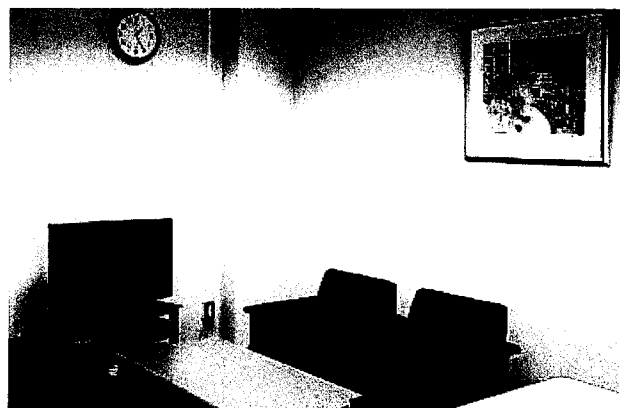
1. 施設について

センターは、近畿大学医学部キャンパス内（大阪府大阪狭山市）にあり、面接室 3 室（面談室、カウンセリング室 1・2）、プレイルーム 1 室、待合スペース、受付、スタッフルームがある。

カウンセリングルームは、近畿大学会館 2 階にあり、面接室が 1 室とスタッフルームがある。近畿大学会館は、大阪市内の日本橋にあり、駅から徒歩 3 分という利便性の良い場所に位置している。



臨床心理センター（玄関）



日本橋カウンセリングルーム（面接室）

2. スタッフについて

センター長、相談担当教員（専門相談員）7人（兼任2人、非常勤5人）、事務職員1人となった。センター長は精神科医師（精神保健指定医）であり、相談員は臨床心理士の資格を有している者が6人、国際応用スポーツ心理学会（AASP）認定コンサルタントの資格を有している者が1人である。4人の相談員は臨床心理センター、3人はカウンセリングルームを担当している。

Ⅲ. 相談活動状況

1. 相談業務

センターの開室時間は火・水・木曜日の10時～17時、電話受付時間は火・水・木曜日の10時～16時であった。カウンセリングルームの開室時間は火・木曜日10～17時であった。相談の種類と料金は、表1の通りである。

表1 相談の種類と料金

相談の種類	料 金
初回面接（50～90分）	8,400 円 （税込み）
個人面接（30分）	4,200 円 （税込み）
個人面接（50分）	8,400 円 （税込み）
親子面接（50分）	12,600 円 （税込み）
心理検査（1種類につき）	4,200 円 （税込み）

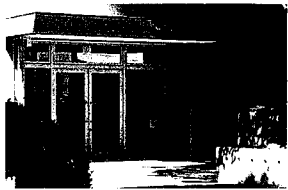
応じる相談内容として、「子どもについての相談」、「自分の性格や行動にかかわる相談」、職場・学校・家庭などでの「人間関係の問題にかかわる相談」、自分の「生き方や健康問題にかかわる相談」、スポーツ選手や指導者の心理面についての「スポーツにかかわる相談」、「家族についての相談」としている。

近畿大学

臨床心理センター

日本橋カウンセリングルーム

ご案内



近畿大学では
さまざまなこころの悩みや問題、困難に
直面している方々のお役に立ちたい
と願い、地域の皆さまに
こころの相談・援助を提供する
「臨床心理センター」を開設いたしました。
当センターでは、心理臨床の立場から
こころの相談・援助をおこなうと同時に、
こころの問題に関する援助法について
研究をしています。

2. 電話受付

電話受付の月別件数、電話受付の内容と対応を表 2、表 3 に示した。

表 2 電話受付の月別件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
電話受付件数	9	6	5	8	4	6	7	8	1	7	7	3	71

表 3 電話受付の内容と対応

受付内容 対応	相談の申し込み	問い合わせ	総計	%
面接日の予約	50	0	50	70.4%
電話での回答	1	15	16	22.5%
他機関紹介	0	5	5	7.0%
計	51	20	71	100.0%
%	71.8%	28.2%	100.0%	

電話受付の件数は去年より 6 件減少した。電話をかけてきた人の内訳は、本人が 48 件（67.6%）、家族が 23 件（32.4%）であった。家族の間柄をみると、家族のうち約 7 割が母親からの電話であり、夫、父など男性からは約 1 割であった。

電話の内容では、相談の申し込みが約 7 割で、そのうち 9 割以上が初回面接の予約となった。初回面接予約となった 50 件のうち、5 件がキャンセル、1 件が次年度の初回面接となった。電話をかけてきた人の約 9 割が、現在もしくは過去に精神科・心療内科などの医療機関への受診歴があったり、カウンセリングなどの心理相談歴があったりしていた。電話受付の時に、受診・通院している医療機関からの紹介状をすでにもらっている人は約 4 割もいた。相談の申し込みの電話が多いのは、このためと考えられる。

3. 新規の相談

新規の相談の月別件数、来談者の性別、来談者の年齢層、来談者の住所を表4、表5、表6、表7に示した。

表4 新規の相談の月別件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規の 相談件数	5	4	3	7	1	3	8	1	3	3	4	3	45

表5 来談者の性別

性別	件数	%
女	27	60.0%
男	18	40.0%
計	45	100.0%

表6 来談者の年齢

年齢	件数	%
0～6歳	0	0.0%
7～12歳	0	7.3%
13～18歳	1	7.3%
19～22歳	6	9.8%
23～29歳	6	29.3%
30～39歳	7	22.0%
40～49歳	16	14.6%
50～59歳	9	4.9%
60歳～	0	4.9%
計	45	100.0%

表7 来談者の住所

住所	件数	%
堺市	9	20.0%
大阪市	3	9.7%
南河内地域	16	35.6%
泉南地域	1	2.2%
泉北地域	7	15.6%
その他の大阪府内	4	8.9%
その他の都道府県	5	11.1%
合計	45	100.0%

南河内地域：

松原市、羽曳野市、藤井寺市、太子町、河南町、
千早赤阪村、富田林市、大阪狭山市、河内長野市

泉南地域：

岸和田市、貝塚市、熊取町、泉佐野市、田尻町、泉南市、
阪南市、岬町

泉北地域：

和泉市、高石市、泉大津市、忠岡町

平成25年度の新規の相談は、前年度の予約分が1件、今年度の予約が44件であった。センターへの相談が33件、カウンセリングルームへの相談が12件であり、平成24年度より4件増加した。新規の相談は7月と10月が多く、月別の件数の傾向は電話受付と類似している。性別では女性が6割と多く、平成24年度とほぼ同様の傾向であった。

来談者の年齢層では、子どもから50歳代まで広範に渡っていた。中学・高校・大学生の年代（13～22歳）が15.5%、23～39歳の人が28.9%、40歳以上の人が55.6%と、40歳以

上の人からの相談が多かった。

来談者の住所では、センターとカウンセリングルームとでは所在地による違いがあった。センター所在地の大阪狭山市を含む南河内地域、隣接した堺市からの相談のほとんどがセンターへの相談申し込みであり、カウンセリングルーム所在地の大阪市とその他の大阪府内からの相談のほとんどがカウンセリングルームへの相談申し込みであった。近いことや交通の便による来談のしやすさが関連していると考えられる。

次に、相談内容と年齢層を表 8 に示した。1 件の相談でも、相談内容が多岐にわたり、複数項目が該当する場合が含まれているため、合計は 75 件となっている。

表 8 相談内容と年齢層

年齢層 相談内容	0～6 歳	7～12 歳	13～18 歳	19～22 歳	23～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60歳～	件数	来談者件数に 占める割合 (%)
子どもについての相談	0	0	0	0	0	1	4	3	0	8	17.8%
自分の性格や行動にかかわる相談	0	0	1	5	6	5	11	4	0	32	71.1%
人間関係の問題にかかわる相談	0	0	0	1	0	5	8	4	0	18	40.0%
生き方や健康問題にかかわる相談	0	0	0	3	1	3	3	3	0	13	28.9%
スポーツにかかわる相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
家族についての相談	0	0	0	0	0	1	1	2	0	4	8.9%
計	0	0	1	9	7	15	27	16	0	75	
来談者件数	0	0	1	6	6	7	16	9	0	45	

「自分の性格や行動にかかわる相談」が全体の約 7 割、「人間関係の問題にかかわる相談」が全体の約 4 割、「生き方や健康問題にかかわる相談」が全体の約 3 割と多数を占めていた。平成 24 年度に比べると、「人間関係の問題についての相談」「子どもについての相談」「家族についての相談」が増えた。

年齢層ごとに相談内容を見ていくと、0～22 歳では「自分の性格や行動にかかわる相談」が 9 割、「生き方や健康問題にかかわる相談」が 5 割と多かった。23～29 歳では、「自分の性格や行動にかかわる相談」が約 9 割であった。30～39 歳では、「自分の性格や行動につ

いての相談」「人間関係の問題にかかわる相談」が7割以上と多かったが、「子どもについての相談」は約1割と少なかった。40～49歳では、「自分の性格や行動にかかわる相談」が7割以上、「人間関係の問題にかかわる相談」が5割以上と多く、「子どもについての相談」「家族についての相談」の相談者以外についての相談は約4割もあった。50歳以上では、相談者自身の相談、相談者以外の相談とさまざまであった。

平成24年度に比べると、「人間関係の問題にかかわる相談」と「子どもについての相談」「家族についての相談」が増えていた。「自分の性格や行動についての相談」であっても、家族や周囲の人々との対人関係の困りごとにもなっていたり、子どもや配偶者、親についての相談であっても、親子関係や夫婦関係の問題が絡んでいたりとしている相談が多かったためと言える。

紹介状の有無、来談の経路を表9、表10に示した。

表9 紹介状の有無

内訳	件数	%
紹介状なし	22	43.9%
紹介状あり	23	51.1%
計	45	100.0%

表10 来談の経路

経路	件数	%
近畿大学医学部附属病院	16	35.6%
医療機関	10	22.2%
教育・心理相談機関	3	6.7%
パンフレット・ホームページ	9	20.0%
友人・知人	7	15.5%
計	45	100.0%

紹介状をもらって相談に訪れた人は全体の5割以上で、23件であった。紹介元の内訳は、近畿大学医学部附属病院、近畿大学医学部堺病院、近畿大学日本橋診療所からが13件、その他の医療機関からは10件であった。平成24年度と同様の傾向であった。

来談の経路では、近畿大学医学部附属病院から聞いて、もしくは紹介されての来談が4割近くあり、平成24年度より割合が減少した。その一方、他の医療機関からの紹介、附属病院内に置いているパンフレットやセンターのホームページを見て、友人・知人からセンターの存在を教えてもらった来談がさらに増加した。開設以来、徐々にセンターの存在が広まってきたことを示していると考えられる。

初回面接後の処遇と継続面接の面接形態を表 11 に示した。

初回面接後、継続面接となったのが 44 件で、その全てが、来談者本人だけの個人面接となり、親子面接の形態はなかった。

表 11 初回面接後の処遇と継続面接の面接形態

内訳	件数
継続面接	44
個人面接	44
親子面接（合同）	0
親子面接（並行）	0
初回面接のみで終了	1
他機関へ紹介にて終了	1
計	45

4. 面接回数と面接経過

年度末の面接経過状況、月別の延べ面接回数を表 12、表 13 に示した。

表 12 年度末の面接経過状況

内訳	平成 25 年度 新規ケース	平成 24 年度 以前のケース	計	%
継続	21	28	49	63.6%
終了	22	3	25	32.5%
他機関へ紹介にて終了	2	1	3	3.9%
計	45	32	77	100.0%

表 13 月別の延べ面接回数

月 面接の種類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
個人面接（50）	17	21	18	20	19	17	26	22	23	22	21	29	255
個人面接（30）	9	11	8	11	9	11	13	10	13	9	7	10	121
親子面接*	0	0	0	0	0	0	4	4	4	6	6	6	30
心理検査	2	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	6
計	28	32	26	31	28	28	43	39	41	37	34	45	412

*親子面接について、並行面接の場合 1 件につき面接回数は 2 回、合同面接の場合 1 件につき面接回数は 1 回と数えている。

平成 25 年度で扱った相談総ケースは、平成 24 年度以前のケース 32 ケースを合わせて、計 77 ケースであった。平成 24 年度よりも総ケース数が減少した。平成 25 年度末時点で、面接経過の状態を集計したところ、6 割以上が次年度も継続となった。他機関へ紹介で終了となったケースは 3 件であり、紹介先は医療機関であった。

新規の相談面接である初回面接を除いた延べ面接回数は、412 回で、月 30 回前後の回数で推移していた。平成 24 年度より 50 回以上増加した。平成 25 年度に新規の相談ケースの延べ面接回数は 214 回（初回面接を除く）で、平成 24 年度よりも 60 回以上増加した。5 回以上の面接を行なったケース数は、平成 25 年度の新規相談では 15 ケース、平成 24 年度以前の相談では 17 ケースであった。継続面接となったケースが多かったため、延べ面接回数が増加したと考えられる。

平成 25 年度は親子面接が 30 回と、平成 24 年度よりも増加した。平成 24 年度は相談種類としての親子面接は 0 件であったが、個人面接として相談者の親との面接を 17 回行なっていた。平成 25 年度も、相談者の親との面接を個人面接として 6 回実施した。

心理検査では、WAIS などの知能検査、GATB などの職業適性検査、TEG、PF スタディ、SCT、バウムテストなどの性格検査を実施した。

5. ケースカンファレンス

センター長、相談員を中心に、ケースカンファレンスとインテイクカンファレンスを定期的に行い、計 9 回開き、ケースについての検討を行った。

IV. 学内・地域への活動

1. 学内コンサルテーション

人見センター長は、近畿大学日本橋診療所、総合社会学部、及び国際人文科学研究所（近畿大学コミュニティカレッジ）、メンタルヘルスアドバイザーを兼務している。


2. 研修講座

平成 25 年度も例年と同様に、夏季教員研修講座「教員のためのカウンセリング講座」を 8 月 3 日（土）に近畿大学医学部において開催した。開催にあたり、大阪府教育委員会、堺市教育委員会、大阪狭山市教育委員会、河内長野市教育委員会、富田林市教育委員会の後援使用の承諾を得ることができた。

人見一彦・センター長による「不登校の精神医学」（第 6 巻紀要に掲載）、朽原京子・専門相談員による「子育て体験からカウンセリングを考える」と奥野洋子・専門相談員による「学校心理学入門」の講義を行った。講義などだけでなく、子どもや保護者などへの対応や職場の人間関係に関する日頃の疑問・相談に応じる、参加者質疑応答の時間も設けた。

対象は、小中学校の教員としたが、地域の公立小中学校教員、近畿大学グループ附属学校の教員、高等学校教員をはじめとした教育関係者、52 人の参加があった。

不登校の児童・生徒への対応のポイントがわかった、親として子どもを褒めることを教育場面でも取り入れたい、教師というポジションから子どもとのかかわりを考え直すことができた、参加していたさまざまな現場からの質問に的確なアドバイスがもらえた、参加することで普段の自分を振り返り整理することができた、来年は若い先生方を誘って参加したい、など好評を得た。センターとカウンセリングルームの存在及び活動内容を広報でき、問題を抱え込まずに専門家に任せることの重要性も理解された。



近畿大学臨床心理センター
平成 25 年度「教員のためのカウンセリング講座」のご案内

今年も、小中学校等の教員の皆様に向けた、「教員のためのカウンセリング講座」を行います。今回は、精神医学からみた不登校について、子育て体験のカウンセリングや教育実践への応用について、学校心理学のピックスについて、と幅広い内容を企画いたしました。また講師だけでなく、参加された方々からの質問や相談に答える時間をもうけています。児童・生徒への不登校の対応にお困りの方、スキルアップを目指されている方、どうぞご参加ください。

なお、会場の都合により、参加人数を限らせていただきますので、お早目のお申込みをお願いします。

近畿大学臨床心理センター長 人見一郎

教員のためのカウンセリング講座

後 援：大阪府教育委員会 堺市教育委員会 大阪狭山市教育委員会
河内長野市教育委員会 富田田市教育委員会

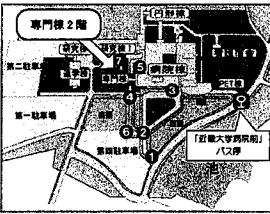
日 時 平成 25 年 8 月 3 日(土) 10 時～15 時(受付開始 9:30)

会 場 近畿大学医学部・専門棟 2 階 第 9 講義室

住所：大阪狭山市大野東 377-2 TEL 072-366-0221(代)

交通：南海高野線「金剛」駅より、南海コミュニティバス「狭山ニュータウン・泉丘」行きに乗り、「近畿大学病院前」バス停下車

*駐車場は近畿大学医学部附属病院外来駐車場をご利用ください(無料駐車券発行します)



対 象 小・中学校等の教員(定員 50 人程度)
*申し込み人数が多い場合はお断りすることがございます

参 加 費 無料(事前申し込みが必要)

～ プログラム ～

- ◆ カウンセリング講座①(午前 60 分)「不登校の精神医学」
講師：人見一郎(近畿大学臨床心理センター長・近畿大学国際人文科学研究科長)
学校現場では依然と多い不登校について、精神医学の視点から、不登校の病理と症状、不登校の子どもの心理について解説します。
- ◆ カウンセリング講座②(午前 60 分)「子育て体験からカウンセリングを考える」
講師：杉原 京子(近畿大学臨床心理センター専門相談員)
親として子どもを育てる体験及び、子どもとして親から育てられる体験は、カウンセリングに重なり合う部分が多いものです。子育て体験からカウンセリングや教育実践に応用できるポイントについて解説します。
- ◆ カウンセリング講座③(午後 60 分)「学校心理学入門」
講師：奥野 洋子(近畿大学総合社会学部講師・近畿大学臨床心理センター専門相談員)
学校や教育実践に関わる、心理学的知見や心理的援助法について解説します。
- ◆ 参加者質疑応答(午後 60 分)
臨床心理センター専門相談員が、児童・生徒や保護者などへの対応や職場の人間関係に関する日頃の疑問・相談に応じます。

申し込み方法

7 月 23 日(火)までに、申し込み用紙にご記入の上ファックスで送信してください。

メールでお申し込み場合は、申し込み用紙の内容を明記してください。申し込み用紙は、ホームページからダウンロードもできます。

*申し込みの人数が多くお断りする場合、ご連絡を差し上げます。

ファックス : 072-366-1340

メールアドレス : ccpc@med.kindai.ac.jp

ホームページ : <http://www.kindai.ac.jp/rd/research-center/clinical-psychology/index.html>

お申込みいただいた登録の個人情報は、近畿大学臨床心理センター「教員研修講座」に関連する業務のみに使用いたします。他の目的には一切利用することはありません。

問い合わせ先
近畿大学臨床心理センター
〒589-8511 大阪狭山市大野東 377-2
TEL 072-366-0221 内線 3288 (火・水・木曜日 10～17 時)



3. 広報活動

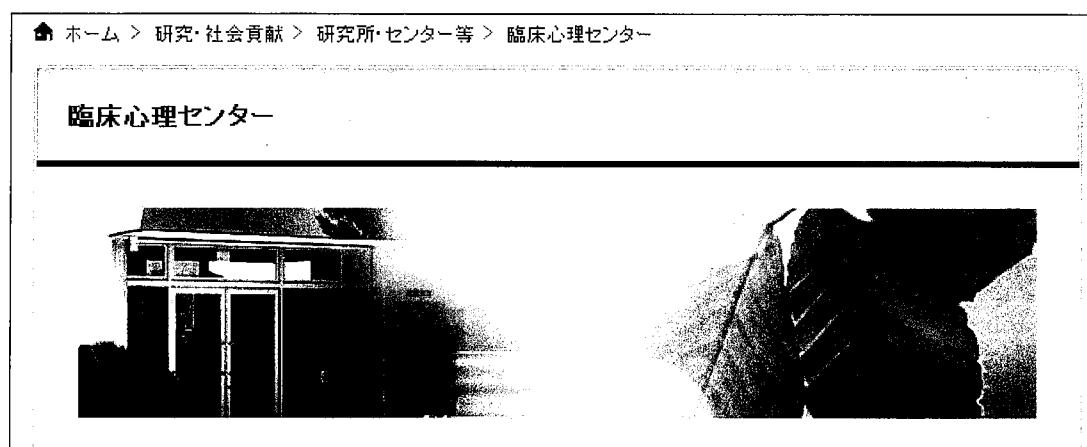
ホームページを設置し、附属病院インフォメーション、相談員が関わった研修会・講演会などにおいて、センターのパンフレットを配置・配布した。また、近隣医療機関、学校教育機関等の関係諸機関にパンフレットを送付した。平成25年度も引き続き、日本臨床心理士会の『臨床心理士に会うには』への掲載を継続した。

近畿大学臨床心理センター HP

URL: <http://www.kindai.ac.jp/rd/research-center/clinical-psychology/index.html>

『臨床心理士に会うには』

URL: <http://www.jsccp.jp/near/>



V. おわりに

臨床心理センター平成25年度の活動状況を集計し、電話受付件数、新規の相談件数、面接回数の年度推移を見ると、年度によっての若干の変動はあるものの、この数年同様の傾向が見られ、1ケースの総面接回数が増加傾向にある。開設以来の同じ体制で行なってきた心理援助活動が定着してきたと思える。近畿大学医学部附属病院からの紹介だけでなく、近隣の医療機関からの紹介、パンフレットやホームページを見ての問い合わせや来談が多く、臨床心理センターの存在が広まっていることと思われる。また、毎年夏に開催している、教員のカウンセリング講座にも多くの先生方の参加があり、好評を得ている。中には複数回参加されている方もおり、開催する私たちにとって大きな励みとなっている。

申し込まれる相談内容を見ると、人間関係や自身の性格の問題だけでなく、身体疾患に伴う悩みや不安、うつ病や双極性障害などの精神疾患についての相談など、内容は多岐にわたっている。また、本人からの相談だけでなく親や配偶者などの家族からの相談も多い。問題が長期化・慢性化していたり、複雑化していたりする相談もあり、相談員のアセスメント

する力、問題の関係性を見立てる力がより求められるようになっている。相談員としてそれぞれの相談に対して、問題を把握し理解する確かな目を持たなくてはならず、ケースカンファレンスや様々な研修がより重要になると思われる。